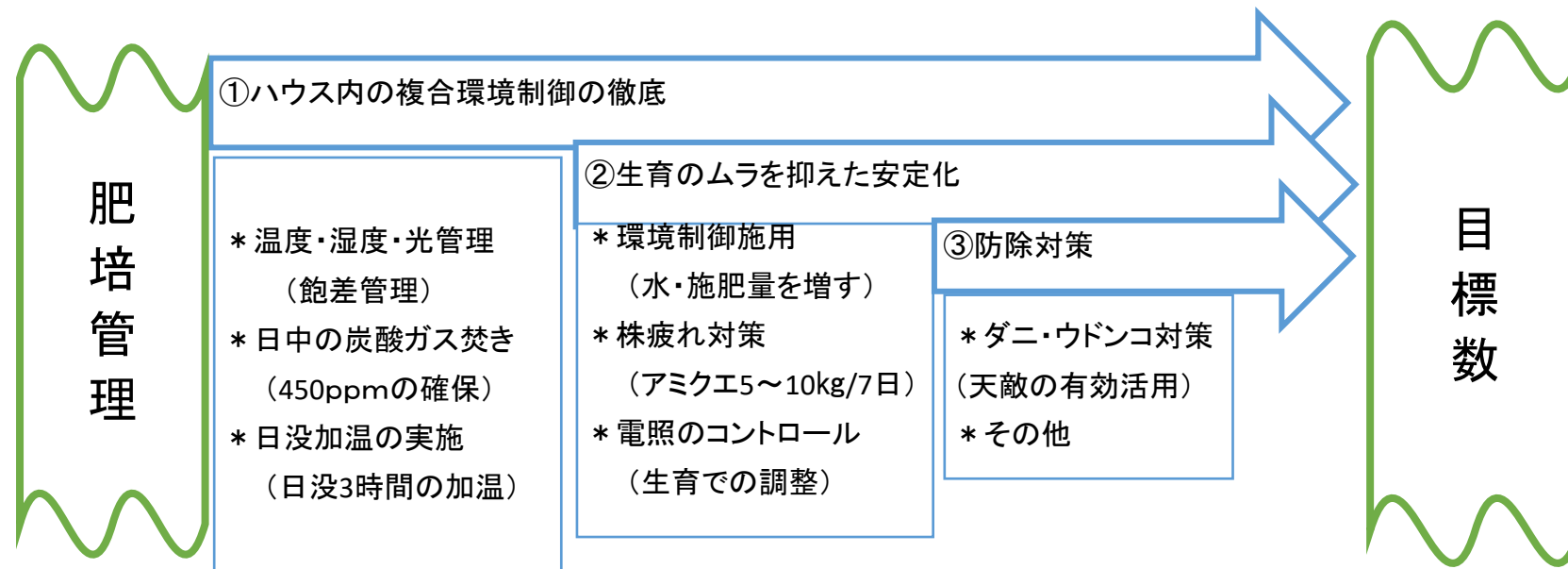


厳寒期の苺栽培管理について

R3.12アグリ技研(株)

この時期の目的は①増収と回転(果房)②生育のコントロール



総合的管理について

- ①複合環境制御管理は、日中の炭酸ガス焚きだけでなく晴天日の日没加温(夜間の前半は養分転流、後半は呼吸作用)
- ②厳寒期で生育停滞期には、早朝加温夜温プラスの5~8℃(芯葉や果房の動きで必ず戻す)
- ③日中の温度管理は、午後まで高めの25~28℃の管理 夕方にかけては温度を高くする。
- ④収穫量増加と共に水管理や施肥量を増す。
- ⑤厳寒期の、玉肥大にはカリ肥料を施用する。「カリっと」1kg/10日 又はウルル18号5~10kgの灌水処理
- ⑥株疲れ対策には、「アミクエ」を3~5kg/5~7日の灌水処理
- ⑦味・旨味・成疲れ対策には「コラーゲン・ラボ」を5kg/3~5日の灌水処理
- ⑧芯葉の葉色の薄く厚みの少ない場合には「クドグリーン」を500倍で葉面散布